



郡上カンパニー

根っこのある生きかたを、つくる。

PROJECT 07

地域電力を用いた地域内循環システムの構築

PROJECT PARTNER

小森 胤樹

こもり つぐき

## 小森胤樹

似顔絵・写真



キャッチコピー・座右の銘

バックキャストで物を考える。  
目的に対して、今なにをすべきか考えて行動できる人間でありたい。

フランクな自己紹介

大阪で生まれ育ち、サラリーマンをしていましたが、林業の現場で働きたいという思いに至り、郡上へ移住して早15年が経ち、現在は46歳。  
住んでいるのは八幡の外れ、明宝に近いところです。こちらにきてから結婚して、今住んでいるところは嫁さんの在り所です。小五の息子と小二の娘がいます。  
林業を軸としながら、それを取り巻く地域課題を解決していくことを生業にしていきたいと考えています。これをご縁と一緒にやっていける仲間に出会うことができれば嬉しいです。

プロフィール文

1971年大阪府生まれ。1997年関西大学工学研究科応用化学修了。同年アークレイ株式会社で臨床検査試薬の研究開発職に就く。2002年、5年のサラリーマン生活の後、林業の現場で働くため郡上八幡に移住し、大原林産に入社。2012年、大原林産代表取締役就任。林業事業体で働きながら、木材の有効利用をしていくため、2013年、郡上割り箸を設立。2015年、石徹白に冒険の森誘致に伴い、株式会社冒険の森の取締役として森林空間利用を始める。2017年、大原林産の代表職を降り、郡上エネルギー株式会社を設立。地域内循環を実現するために、売電から始め、バイオマスを含む再生可能エネルギーの自給率アップを目指す。  
これまで行ってきた林業については森林総合監理士としての活動を軸に生業としてやっていく。

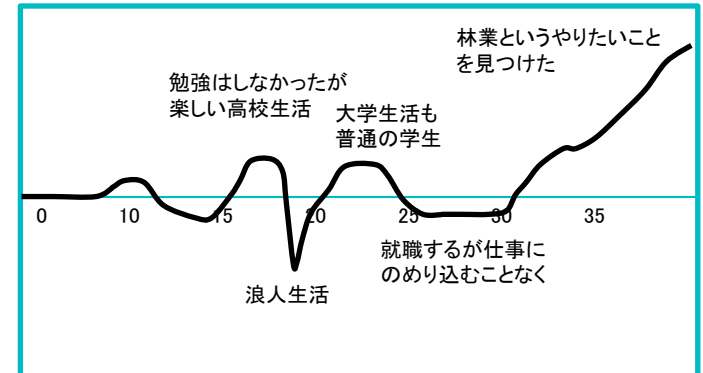
自分ヒストリー

- 昔
- 小学生
- 中学生
- 高校
- 大学、大学院
- サラリーマン生活1～5年目

私の入っていたクラブは4年から6年までの担任が作った野生クラブ。校庭で焚き火して料理作るクラブだった、それが今こんなことしている原体験かも。6年のとき、児童会会長もした。転校に伴いおとなしくしていた時期。クラブも理科クラブ。理系思考は中学生のとき醸成される。それなりの進学校に入ったが、ほとんど勉強せず(成績のいいのは中学がピーク)。クラブ(ハンドボール)と学校生活を楽しむ。  
一浪して、応用化学科に入る。受験動機は環境を破壊したのは化学技術なので、守るためにも化学の力が必要と考えたため。しかし、あまり実験や研究にのめり込むように興味ももてず。就職氷河期のため、モラトリアム的に大学院へ進学。  
京都第一化学(現アークレイ株式会社)に入社。糖尿病の診断薬の研究開発に就く。数年たち、朝の朝礼時別部署の上司の挨拶、“皆さんは5年後、10年後の自分の姿描いて仕事していますか”これを聞いてが一瞬となった。描けない。辞めるしかないと思いついた。  
元々、環境に関する仕事があった。でも研究職は合わない。全く別分野でこれからの日本で面白くなりそうな環境分野として林業に行き着く。  
郡上八幡に来たのは偶然。岐阜県の林業体験に応募し、受け入れ先の大原林産に体験終了後内定をもらって帰る。会社に辞表を出し、半年後に移住。林業の現場作業員生活が始まる。

今

人生グラフ:横軸は年齢・縦軸はイキイキ度(幸せ度)。  
人生で輝いていた時、沈んでいた時を見える化しましょう!



みんなが知らない自慢・芸・得意技

学生時代、釧路川、四万十川などでツーリングカヌーにはまる。林業者なので、沢山資格持っています。森林総合監理士、林業技士、林業架線作業主任者、玉掛け、移動式クレーン、はい作業、機械掘削(重機の運転)、ほかいろいろ。

個人的背景

林業の現場で働き、会社を切り盛りしてきました。郡上市の色々な部署の外部委員をやらせてもらう中、もっと広い視点で地域に貢献していきたいと考えようになります。  
木質バイオマスをどのように有効利用するのも含め、地方を今後も維持していくためには地域内循環を増やしていくことが重要である。それを実現する手段として地域電力会社が必要という思いに至り、郡上エネルギーを設立した。

課題・ビジネスチャンス

地域内循環を実現する一つの方法論として、地域電力の仕組みがある。誰もが払う電気代を地域内にある会社から購入してもらうと、地域内のお金が地域内に落ちる。そこから得られる利益をまた地域に返すことでお金が回り始める。これをどのように見える化して市民にその必要性和恩恵が見える化することができるかが課題。

プロジェクト概要

地域電力を用いた地域内循環システムの構築(20文字以内)

このプロジェクトの目標は、郡上エネルギーが公共電力も含めた一定の売り上げを達成し、その配分できる利益を用いて、地域内循環システムを作ることにある。作る仕組みは3つに分類する。

- ①地域インフラ会社との連携の確立(ケーブルテレビ、プロパンガス、新聞販売店など)
- ②購入先を切り替えたことによる住民サービスの見える化。(例)見守りサービス。
- ③電力の売上から得られる利益の利用法の確立。(例)地域課題解決への出資、投資。

これらの仕組みの見える化により、電力事業を通じて地域内資金循環をつくり、行政では行き届かない公的サービスを提供する会社を目指す。

価格競争をしない、地域電力会社の仕組みを作らなければ、事業規模からは大手電力にはかなわない。



あなたは、郡上のどんな①人・コミュニティ②自然③文化に根ざっていて、このPJはそれぞれにどんな価値を還元できると思いますか？

	①人・コミュニティ	②自然	③文化
あなたが根ざしているもの	地域を維持していくことを行政任せにしない人たち。住民自治を今の時代に合わせて取り戻そうと考える人たちや地域の仕組み。	郡上の水資源、森林資源を生かした、再生可能エネルギーをしっかりと提供していきたい。	上の写真は郡上エネルギーのロゴマークである。これは120年前、八幡に県下最初の商業小水力発電ができた記念碑のマークから採用した。
プロジェクトがそれぞれに対して還元できる価値	地域内循環という仕組みを理解してもらえると、今の時代に合った地域のつながりが見える化できる。	地域で消費されるエネルギーを、遠いアラブの国からくる石油ではなく、発電事業としても地域に供給していく。	このPJは地域に必要なもの、ことは地域で作るといふという当たり前のことを現代に取り戻すことを目指している。

3年間のロードマップと3年後にどうなしてほしいか

1年目 ↓	実績作り期	やること	・売上確保のための営業活動 このPJの意義を広く伝える	・地域内のインフラ会社との連携構築 一般家庭の電力切り替えの仕組作り	・社団法人郡上未来創造機構の設立 地域還元システムの見える化
2年目 ↓	地域還元期	やること	・利益の中から地域への 還元システムの運用開始	・再生可能エネルギーへの投資 市民出資の発電事業 運用益の還元	・郡上の一次製品の外貨獲得 都市部企業との連携
3年目 ↓	事業拡大期	やること	・郡上版シュタットベルゲの開始 3セク業務の委託	・再生可能エネルギーの拡大 エネルギー事業と一次産業との連携 農業、林業	
3年後の理想状態					
<p>3年後に電力販売の売上5億を目標にする。郡上エネルギーとして、社団法人郡上未来機構と人材の併用はするが2名の社員を雇用して運営したい。公共電力においては、ほぼ全てを郡上エネルギーからの購入している状態に持っていく。</p> <p>情報、ライフライン等のインフラ事業者との確固たる連携が確立し、一般家庭の切り替えは総世帯数の10%を取る。</p>					

どんな人に来てほしいか？スキル/マインド/実績など

募集メッセージ(プロジェクトのわくわく感)

PJPの関わり方

<p>新しい地方経済の仕組をゼロから一緒に作ってみたいという野心のある方を求めています。また地道にコツコツとやっていく粘り強さも必要です。思いや作り上げたい仕組をまとめて、見える化することができる、したい方求めています。</p>	<p>世の中の仕組が大きく変わろうとしています。それに気がついているでしょうか。</p> <p>地方は保守的ですが、都市部の無関心な関係では構築できない地域との関係がまだ存在します。だからこそ、地域内循環の仕組は地方で作りに上げることができると考えます。</p>	<p>A. 私自身がフルコミットして一緒に取り組みます。</p> <p>B. 私が今取り組んでる事業を基盤に、新しい事業を一緒につくります。</p> <p>C. 私にとっても未知の分野、新しいチャレンジです。</p>
--	---	--

暮らしのイメージとサポート

<p>プロジェクトの対象地域</p> <p>岐阜県郡上市全域(事務所は八幡町)</p> <p>その地域での暮らしはどんなものですか？(※移住者の居住地がこの地域になるとは限りません)</p> <p>生活に不便を感じる田舎ではありません。事務所のある(おそらく住むであろう)八幡町は他にも移住者が多く、よそ者が住みにくいような場所ではありません。</p>	<p>あなたはプロジェクトに応募する人の暮らしにどんなサポートできますか？</p> <p>私自身が移住者です。生活していく上でなにか困りごとがあれば相談に乗れるはず。まず、一番の相談役になることから始められればと思います。</p>
--	---